

### 3-3 消防庁舎・消防出張所・その他消防（圏域：全市域）

#### 3-3-1 施設再編の方針

<b>対象施設</b>
別府市消防本部、消防署浜町出張所、消防署朝日出張所、消防署亀川出張所、消防分団
<b>施設再編の方針</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 消防庁舎等は市民の暮らしに欠かせない救護・消火の拠点施設であることから、市民の安全を最優先に配置し、施設の耐震性確保と適正な計画保全により維持・存続します。</li><li>▶ 消防本部は、施設の利便性に問題があり老朽化も進行していることから、平成 26 年に整備した通信指令台の改修時期に合わせて、防災機能の強化を含めて、施設更新等について検討します。</li><li>▶ 消防署亀川出張所は、老朽化の進行が著しく、建替えを早急に計画します。</li><li>▶ 消防分団格納庫は防災体制を見直す中で、消防活動に支障をきたさない範囲で集約化について検討していきます。</li></ul>

#### 3-3-2 現状分析

##### ① 施設の概要

消防本部は火災や救助等の災害救援の拠点施設です。昭和 54 年に建築されています。阪神淡路大震災を機に、平成 12 年、耐震補強工事を実施しています。救急救命講習や防火管理者講習等も施設内で実施しています。

消防署浜町出張所は昭和 33 年に建築されたものを取り壊して、平成 20 年に新築されました。別府市の南部地域を所管しています。消防団第 3 分団格納庫も併設されていますが、その部分は既存施設を利用しています。

消防署朝日出張所は消防署鉄輪出張所・扇山出張所を廃止して、平成 5 年に現在の朝日中学校横に建築されました。市の西部を所管し、山間部や高速道路での災害に対応します。

消防署亀川出張所は昭和 47 年に建築された旧耐震基準の建物で耐震化未対応です。別府市の北部地域を所管します。

消防団は平成 28 年現在 17 個の分団で組織されていますが、分団格納庫が 100 m<sup>2</sup>を超える第 3 分団と第 6 分団のみ、マネジメント計画の対象としています。

##### ② ポートフォリオ分析結果

消防関係の施設には、消防庁舎に別府市消防本部、消防出張所に消防署朝日出張所、亀川出張所、浜町出張所の 3 出張所、その他消防施設には消防団第 6 分団格納庫、第 3 分団格納庫の 2 格納庫があります。これらの消防関係の施設は、施設機能を確保する必要があり、今後も存続する施設となります。そのため、ポートフォリオ分析は実施せず、品質状況について、基礎情報を掲載するに留めます。

今後、市街化区域面積に対する分団数等をふまえながら、最適量や再編を検討します。

台帳 番号	施設名称	占有面積 (㎡)	品質				平均 偏差値 (ハード)
			築年数 (年)	偏差値	耐震 対応率(%)	偏差値	
2	別府市消防本部	2,884.4	34.7	47.4	100.0	55.3	51.4
3	消防署朝日出張所	344.1	21.0	55.6	100.0	55.3	55.4
4	消防署亀川出張所	218.6	42.0	43.0	0.0	30.0	36.5
5	消防署浜町出張所	670.7	6.0	64.5	100.0	55.3	59.9
10	消防団 第6分団格納庫	105.5	37.0	46.0	0.0	30.0	38.0
3483	消防団 第3分団格納庫	118.8	33.0	48.4	100.0	55.3	51.9

図 21 各指標の基礎データ（消防移設・消防出張所・その他消防）

### ③ 老朽化の状況

いずれの施設においても大きな問題は発生していません。

### ④ 施設の機能性について

消防本部・消防出張所の所在地は、主要道路に大きく面しているため、緊急車両出動時の利便性に優れていますが、車両のサイレン等大きな音を頻繁に発するので、立地条件等については周辺への配慮が必要です。

消防本部にはエレベータ等が無く、身体の不自由な方が4階大会議室での催しに参加することが困難です。

### ⑤ 消防団施設における配置状況

人口減少が進み、消防団員を確保することが一層難しくなる中で、従来どおりの施設数を維持することは今後困難になることが想定されます。近接する配置となっている消防団施設においては統廃合・集約化の可能性を検討することも必要です。